

# 愛は南から――

## 夢は横綱。全国を4度制して、中学は柔の道へ 福原丈一朗くん

じょういちろう

わんぱく相撲全国大会の連覇（小学4、5年生）、そして白鵬杯世界少年相撲大会の連覇（小学5、6年生）と、小学生の相撲大会で全国優勝すること4回。南宇和郡の少年相撲史に前人未到の輝かしい成績を残した福原丈一朗くんが、この春、平城小学校を卒業しました。進学した宇和島市立津島中学校では、活躍の舞台を柔道に移して全国の頂点を目指します。



第9回白鵬杯世界少年相撲大会(小学6年生個人戦)で優勝した福原丈一朗くん

2月11日に両国国技館（東京）で行われた第9回白鵬杯世界少年相撲大会。小学6年生の部に出場した福原くんは、「緊張した」という初戦に勝利すると、そのまま勢いに乗って勝ち続け、危なげなく連覇を成し遂げました。

「優勝できたときは、嬉しいよりもほっとした」と言う福原くん。南宇和相撲クラブの若松良健監督は「白鵬杯に向けて調整して、きっちり結果が出せるメンタルの強さは、小学生離れしている」と舌を巻きます。

福原くんが、相撲を始めたのは、4歳の頃。柔道をしていた父親の影響で、同じ時期に柔道も習い始めました。それから約8年、相撲では4度全国制覇を成し遂げるなど、全国にその名を轟かせ、柔道でも愛媛県大会を制して全国大会に出場する選

手に成長しました。

福原くんの将来の夢は、横綱になること。

「この三年間は、技を磨きスタミナをつけたい」と話す福原くん。そのために中学校では柔道で全国の頂点を目指すことを決意しました。

若松監督は「柔道で鍛えた技のキレや、腰の強さは、相撲に生かすことができる」と柔の道を志す福原くんの背中を押します。

相撲を通じて協力することの大切さを学んだという福原くん。「クラブで一緒に稽古する後輩が個人戦で優勝したことや、団体戦で一緒に優勝できたことが一番心に残っている」と振り返ります。

相撲も柔道も。前人未到の二刀流が愛南から大きく羽ばたこうとしています。